



令和元年11月27日
海上保安庁

海上保安庁最大となる測量船「平洋」がいよいよ就役！

海上保安庁では、「海上保安体制強化に関する方針」（平成28年12月海上保安体制強化に関する関係閣僚会議決定）に基づき、海洋調査体制の強化を進めています。その一環として、令和2年1月29日、海上保安庁最大となる測量船「平洋」が就役します。

なお、海上保安庁において、大型測量船の就役は約20年ぶりとなります。

この度、就役する測量船「平洋」は、マルチビーム測深機に加え、「自律型潜水調査機器（AUV）」や「自律型高機能観測装置（ASV）」といった最新の調査機器を搭載しています。また、推進器に「アジマススラスタ」を採用しており、360度どの方向にでも推進力を向けることが可能となることで船位の定点保持能力が増し、精密かつ効率的な海洋調査の実施が可能となります。

測量船「平洋」は、就役後、日本海や東シナ海等において、我が国の海洋権益の確保に必要な海底地形や地質に関する調査等に従事します。

○測量船「平洋（へいよう）」（別紙1,2参照）

所属	海洋情報部
船型	HL11
就役日	令和2年1月29日
総トン数	約4,000トン
長さ	約103メートル
幅	約16メートル
主要装備	アジマススラスタ、マルチビーム測深機、 AUV：自律型潜水調査機器、ASV：自律型高機能観測装置
船名由来	海洋調査を通じて、 <u>平和な海、平穏な海を目指していく</u> という思いを込め命名。

※これまでの海上保安庁最大の測量船「昭洋」
総トン数：3,000トン 長さ：98メートル



【別紙1】測量船「平洋」について

HL11 平洋

主要目等

総トン数:約4,000トン
長さ:約103メートル
推進器:アジマススラスタ(※)

※ 舵とスクリューが一体となっており、360度任意の方向に推進力を向けることが可能な電気推進装置

【これまでの海上保安庁最大の測量船】
測量船「昭洋」 総トン数:3,000トン 長さ:98メートル



主要任務

日本海、東シナ海等における、海底の地形及び地質に関する情報の取得

特徴

○定点保持能力
(アジマススラスタの採用)

一定の位置に留まる能力が増すことにより、精密かつ効率的な海洋調査の実施が可能となる。

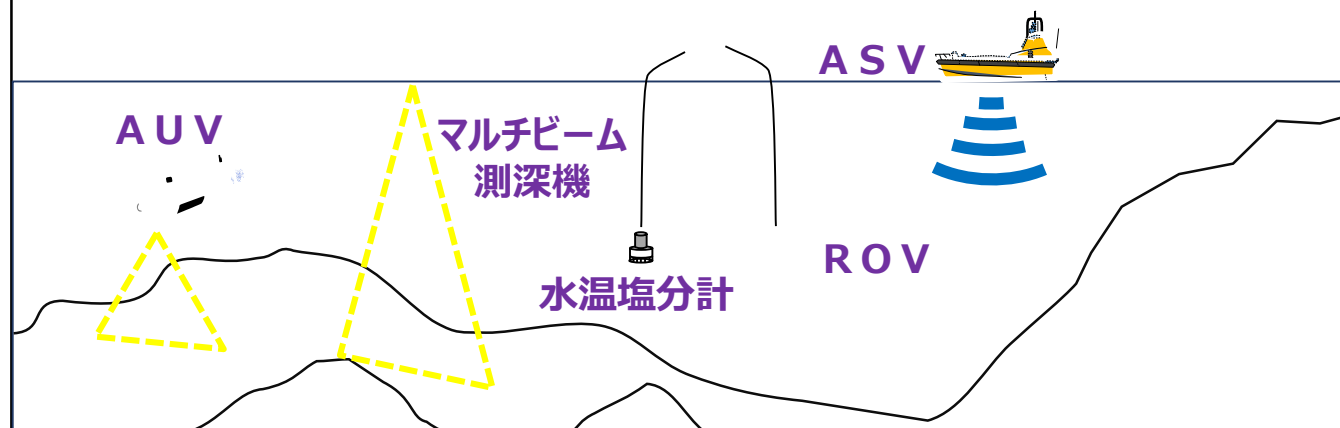
○防振、防音性能
(電気推進の採用)

観測データに影響を与える船体の振動や雑音を防止することにより、精密かつ正確な観測データの取得が可能となる。

○低速航行能力
(電気推進の採用)

長時間低速で航行する調査では、機関(エンジン)への負荷が大きいが、電気推進の採用により機関への負荷が軽減される。

【多様な調査機器】



AUV、マルチビーム測深機、ASV : 別紙2参照
水温塩分計 : 海中に投下し、塩分、水温を観測する装置
遠隔操作水中機器(ROV) : 船上から遠隔操作し、海底の撮影を行う調査機器

